佐野「学生の会」発足1年

「子どもたちに笑顔を」

高校生ら主体に催しで交流活動

貧困などの家庭支援

佐野市に在住・在学の高校生らでつくる「佐野市の子どもを応援する学生の会」（山本朋果代表、15人）が、貧困などの厳しい生活環境にある子どもたちの支援に取り組んでいる。新型コロナウイルス禍でイベントが中止になったり会員間のコミュニケーションが難しかったりする状況下で、「子どもたちを笑顔にしたい」という目的を見失うことなく活動。主体的に取り組んだことで、学びの多い1年となった。（藤田りか）

同会は、子ども食堂や学習支援などを行うNPO法人「子どものとなり佐野」の高校生ボランティアが中心となり、2021年春に発足した。佐野高3年の山本代表（18）は「学生の人数が増えたので、自分たちが中心になって活動をしてみたいという気持ちが芽生えた」と会を立ち上げた経緯を述べた。

活動に当たっては、本年度の県とちぎユースチャレンジ応援事業に応募し、さまざまな助言・支援が受けられる環境を整えた。大切にしたのは「子どもたちに年齢が近い学生の視点」。子どもたちが、大勢の人と関わり楽しめるイベントを活動のメインに据えた。

しかし、昨年8月に予定していた夏祭りは新型コロナ感染拡大の影響で中止に。同2年笹村色織さん（17）は「会議を重ねて準備したので中止はとても残念だった」と振り返り、コロナ禍でのモチベーション維持の難しさを知った。

気持ちを切り替え、9月には佐野高文化祭で子ども食堂向けの食品を募る「フードドライブ」を実施。来校者や教職員などの協力を受け、多くの食品が集まった。「校長先生が関心を持っていろいろ質問をしてくださりうれしかった」（山本代表、笹村さん）。

12月には「ふゆまつり」として、初の対外的イベントが実現した。小物入れやクリスマスリース作りなどを通じて子どもたちと交流。笹村さんは「子どもたちが楽しんでくれたし、母親同士のつながりができたようだ」と手応えを実感した。

1年間を振り返り、意見を言い合える対面での会議、賛同者、活動の周知がいかに大切かを知った。山本代表は「インスタグラムなどを使って活動をPRし、仲間を増やしたい」と意欲を見せている。

活動を見守ってきた「子どものとなり佐野」の熊倉白合子さん（48）は「学生が本当に困った時にのみ手を差し伸べた。学生たちは活動を通して成長したと思う」と目を細めている。

冬のイベントで、ビンゴゲームを行う「佐野市の子どもを応援する学生の会」メンバーら＝昨年12月、佐野市内

ボランティアについて理解を深める「佐野市の子どもを応援する学生の会」メンバーら＝13日、佐野市内